

活動完了報告

コントラバスリサイタルの開催

伊藤翔匠

≪報告および成果≫

「みんなの寄付」の助成対象公演である「コントラバスリサイタル『地をつたう、コントラバスの振動』」を当初の予定通り、2022年9月28日に開催した。

演奏会の開催によって、「一般的に単体での演奏機会が少ないとされているコントラバスの演奏機会を増やす」という目的を達成できた。

また、「普段、クラシック音楽にあまりなじみがない人たちにも広報活動を行うことにより、コントラバスの魅力や可能性について知ってもらい、ひいてはクラシック音楽業界に新しい客層、ターゲットを取り込むこと」については、7割ほど達成できたのではないかと考えている。7割とした根拠はアンケートの集計結果に基づいており、具体的な内訳としては、「普段クラシック音楽を聴きに行く機会が少ない=7割」、加えて「コントラバスのソロを初めて聴く=9割」である。

この結果が示すように、今回の公演ではクラシック音楽にあまりなじみのない人々を集客することに成功し、この点においては目標を達成したと考えている。また、お客様からは「コントラバスからこのような音が出るとは思わなかった」、「コントラバス演奏の可能性についてより知ることができた」「演奏者(私)の音楽に対する想いが強く伝わってきた」などの感想を得た。こうした感想から「クラシック音楽、またコントラバスという楽器に興味を持ってもらう」という目標についても、概ね達成できたのではないだろうか。

今回、企画段階から運営・出演まで、そのほぼ全てを自分自身で行ったが、この経験は今後音楽家として活動していく上で、大きな一歩となったと考えている。

≪今後の課題≫

今回の演奏会では、コントラバスという楽器やこのような活動を、より多くの方にお伝えすることで、演奏会運営の一助となるべく、別途クラウドファンディングも実施した。

その結果、当初設定した目標金額には及ばなかったが、幅広い人々に活動を発信できたと考えている。

会場の座席数(55席)に対して、当日の来場者は45名と、8割を超えるお客様にお越しいただくことが出来た。

その一方で、知人以外のお客様を獲得するという点では、予想よりも来場者が少なかったため、今後の宣伝方法については、大いに改善の余地があると考えられる。

また、今回は企画運営から、広告デザインなど宣伝活動・演奏までを一人で行ったため、そのバランス配分に大変苦慮した。次回以降は、スタッフへの仕事分担なども視野に入れ、余裕を持った運営・準備が行えるよう改善したい。

資金面では予算に比べ、半分以下のコストに抑えることができた。しかしながら、計画段階では予想していなかった「リハーサル会場費」が発生する事態にも見舞われた。これは工夫によってさらに支出を削れる可能性があるため、今後の運営上の課題にしたいと考える。

《その他》

「コントラバスの普及活動」、「コントラバスのソロ演奏」に対し、潜在的な需要があるということ、演奏会を通じて確信することができた。今後も、この企画は継続して実施をしていきたい。また、今回ご支援いただいた皆様に対して、御礼を申し上げる。

